

芸術とは何か？～感性に目を向ける～ 議事録

本議題では班員各自の芸術観を語り、それを掘り下げる形で議論を行った。
各々の芸術観は大きく3つにまとめることができる。

- 1 芸術は言葉で表せないものを表現する方法である
- 2 芸術は人の創作物全てのことである
- 3 芸術は生命や物質そのものである

以上が各々の芸術観である。順に詳しく説明する。

1 芸術は言葉で表せないものを表現する方法である

芸術を言われれば、絵画や音楽を思い浮かべる人が多いだろう。
絵画や音楽には作者の意思、思いが込められていることが多い。美術資料等を読んでみても、作品について「～が伝わる作品である」など解説が載っているのが良い例だろう。
芸術とは、言葉で表すことのできない思いなどを絵画や音楽など非言語的な手段を用いて伝えようとするものなのではないだろうか。

では、詩や俳句、小説等文学作品は芸術ではないのだろうか？

文学作品は言葉を使った芸術といえるだろう。このことから芸術とは単なる非言語的表現ではない、といえる。

2 芸術は人の創作物全てのことである

有名な芸術家の作品に限らず、人の創作したものは全て芸術なのではないか、という考え
方である。さらにそこから発展し、例えば空は自然物だが、カメラを用いて写真にすると空
を芸術とする、という考え方もある。ここで重要なのは「空を、カメラを用いて、写真にす
る」即ち「自然を、人の手を加えて、芸術にする」ということだ。単なる創作物に限らず人
の手を加えたもの、人の意を介したものは芸術といえるのではないだろうか。

3 芸術は生命や物質そのものである

生命や物質そのものが芸術であるという考え方である。この考えになぞらえると、例えば
人間の生、感覚、哲学、食、原子などありとあらゆるものが芸術であるといえる。

以上が議論中にまとまった班員の主な芸術観である。

次に、「アートとデザインの違いとはなにか」について考えることで、芸術についての理解を深めた。

- ・アートは自分の意思を表現できる唯一の方法、単独を生み出せる表現、感情によって作られるものである。
 - ・デザインはより多くの受け手に向けて計画的に作られたもの、手段である
- 以上が班内でまとまった、この間に関する答えである。

また、「受け手の芸術」「作り手の芸術」という考え方も班内であがった。受け手、即ち、画家などの創作したものを批評したり集めたりする者にとっての芸術と、作り手、即ち画家や音楽家など芸術を創作するものにとっての芸術は違うのではないかという考え方である。

受け手は絵画等を見て作者の意図を汲み取ろうとする。その行為こそ「芸術を感じる」ことなのかもしれない。しかし、作者は受け手の想像するほどの意図があって作品が作ったとは限らない。つまり、芸術とは必ずしも受け手と作り手の意識が噛みあう必要はないのではないか。

最後に、芸術とは何か、その答えは実に様々である。上記にまとめてきたのは班内で結論が出たものであるが、まだ掘り下げることができるだろう。班内では芸術について考えることも芸術の一つなのではないかという意見も出た。芸術とはつかみどころのないものであり、断定できるものでもない。各々が芸術とを感じるものを芸術とし、芸術を楽しめば良いのではないだろうか。